

令和 4 年度第 2 回学校運営協議会長情報交換会 議事録要旨

日 時 令和 4 年 12 月 5 日（月）9 時 30 分～11 時 45 分

場 所 二宮町役場第 1 会議室

出席者 出席 14 名

- ・二宮小学校 大矢 学校運営協議会長、山内 地域学校協働活動推進員、北川校長
- ・一色小学校 小野寺 学校運営協議会長、橋本 地域学校協働活動推進員、中西校長
- ・山西小学校 宮戸 学校運営協議会長、山中 地域学校協働活動推進員、藤田校長
- ・二宮中学校 加山 学校運営協議会長、石井 地域学校協働活動推進員、伊庭校長
- ・二宮西中学校 泉 学校運営協議会長・地域学校協働活動推進員、和田校長

町 7 名

- ・教育長、教育部長
- ・教育総務課
- 下條課長、田中課長代理（指導主事）、安藤指導班長（指導主事）、高橋主任主事
- ・生涯学習課
- 竹本課長代理

傍聴者 0 名

配布資料

- ・次第
- ・資料 1 令和 4 年度 二宮町学校運営協議会長情報交換会名簿
- ・資料 2 小中一貫教育と今後のコミュニティ・スクール
- ・参考資料 1 令和 4 年度 第 1 回学校運営協議会長情報交換会 会議録

議事録

1	開会
2	教育長挨拶
3	小中一貫教育と今後のコミュニティ・スクール
事務局	資料 2 令和 4 年度の取組状況について報告（施設分離型準備委員会・施設一体型研究会） 令和 5 年度分離型小中一貫教育の事業内容 令和 5 年度施設一体型小中一貫教育校設置研究会における研究の方向性 令和 5 年度以降のコミュニティ・スクール ・当面は現在の形態で活動を継続。統合については各校の進捗を踏まえて今後検討。 ・代表者会での情報交換は今後も実施。 ・当面、代表者会を「にのみや学園」の学校運営協議会という位置づけとしたい。
一色小	来年度の各校の学校運営協議会及び代表者会の開催回数はどれぐらいを予定しているか。
事務局	どちらも今年度と同じ回数と考えている。
一色小	各校の学校運営協議会の回数は少ないと感じている。臨時に開催したこともあった。

	また、小中交流、小小交流など各校のニーズを把握した上で、臨機応変に開催できるとよいのではないかと。
事務局	代表者会を情報共有の機会にしたい。
二宮小	予算のこともあり、開催回数を増やすことは難しいと思うが、必要に応じて開催回数を増やしてもよいと思う。今年度は、予算を措置した4回とは別に、1回追加して5回開催した。各校の取組状況には特色があるため、もう少し柔軟性を高めることを検討してほしい。
事務局	予算の準備等もあるので、学校を通して学校運営協議会の活動計画を教育委員会に提出してほしい。柔軟性については意見として受け止める。
二宮小	コミュニティ・スクールの今後について。放課後子ども教室は社会教育、学校運営協議会は学校教育にカテゴライズされるが、実情は、メンバーも大半が重複している。学校運営協議会と放課後子ども教室の活動を一体化してほしい。立ち上げ当初の令和2年度に説明があった位置づけから変更した点はあるか。
事務局	国の考えでは、学校運営協議会と地域学校協働本部は車の両輪とされている。町では地域学校協働本部はないが、実情を踏まえると、学校運営協議会と地域学校協働活動は一体的に進めていけたらよいと考えている。
一色小	学校運営協議会と地域学校協働本部は両輪ではなく協働でよい。2つを分けない方が活動しやすい。ただし、学校運営協議会と地域学校協働本部は本来役割が異なる。2つをわけるといふより、学校運営協議会が自らの役割に徹した方がいいと考える。地域学校協働本部が地域に協力を呼び掛けることで、人脈がどんどん広がっている。学校運営協議会が担うよりも効果的だと感じている。学校運営協議会では、活動方針を定め、活動状況を評価し、次につなげていくために協議する場と位置付けた方がいい。それぞれが「活動」と「協議」の役割を意識しながら取り組んでいくことがよい。
二宮小	理想はその通りだが、今はまだ難しい学校もある。
事務局	各校の取組状況に差はある。当面は各校のペースで地域学校協働活動を推進していき、代表者会で共有を図っていくという方針でよいのか。
全員	よい
事務局	来年度以降の代表者会は、「にのみや学園」の学校運営協議会と位置付けて、情報交換会を実施するという方針でよいのか。
全員	よい
二宮小	令和5年度から施設分離型小中一貫教育校が開設する。他市町によると、はじめは苦勞するが、数年経過すると楽になると聞いている。事務局から説明のあった「同学年の生徒のふれあい」についてももう少し詳しく説明してほしい。
事務局	中学校に進学した際の同学年の人間関係づくりに対する期待や不安。一色小の子たちだけでなく、多くの子どもにも共通する思いだと捉えている。
一色小	来年度の各校の学校運営協議会の年間予定を共有したい。参加できる時にはオブザーバーとして参加したい。
事務局	各校の第1回学校運営協議会で年間予定を定めるので、その後各校に情報共有する。委員会を通して参加者を調整する。

4 情報交換	
事務局	2 学期の学校運営協議会の進捗及び地域学校協働活動推進委員の活動内容について情報交換をお願いしたい。特に、令和 3 年度から中学校にも地域学校協働活動推進員が配置され、特色ある活動を展開し始めていると思うので、中学校はそれらの活動内容もご紹介いただきたい。
二宮小	コロナ禍でも情報交換を頻繁に行うことができている。 ・環境整備部会…地元業者にも力になってもらい、家庭科室を修繕した。雰囲気明るくなった。 ・校外安全部会…子ども SOS の家スタンプラリー実施 ・学び部会…放課後子ども教室の一部を活用して、子どもたちの疑問に対して経験豊富な大人がわかりやすく回答するような場を設定。 ・その他部会…放課後子ども教室のお迎えを自由にしてもらったことなど、行政と学校運営協議会が連携することで改善が進んでいる。学校運営協議会と小中一貫教育とのかかわりをどう深めていくかが課題。
一色小	・全教職員にも参加してもらい第 2 回学校運営協議会（8 月）を開催した。現場の先生の考えを収集できる貴重な機会。 スマイルネットルームについて ・今年度から稼働。主にスマイルネットの活動に参加する大人（教職員も含む）が集う憩いの場。イメージはカフェ。スマイルネットルームに必要な備品等を保護者や地域から募集している。 ・地域で囲碁をしている方を誘って、学校で子どもたちに囲碁体験できる機会を提供。休み時間には子どもたちも来室する。子どもたちは囲碁の才能があるねと褒められるなど、地域の方との交流もある。 ・1 年生担任から「収穫したさつまいものつるを使ってリースを作ることができないか」と相談を受け、リースづくりを実施。推進委員がリースづくりの得意な人を集めて実現化。 ・工作を自由にできる、楽器もひけるなど子どもたちの心を整える場にしてきたい。はじめはスタートカリキュラムにも資する場として 1 年生から活用を始めたが、だんだんと他学年に広がりつつある。 ・4 年生が相模原市立鳥屋小学校と交流している。今年度は鳥屋小の子どもたちを一色小に招待するために、段ボール迷路を教室内に作った。段ボールの調達に協力した。 ・リハビリ施設（ききょう苑）とのコラボレーションでタオルを雑巾に生まれ変わらせようプロジェクトに取り組んでいる。リハビリ施設から出来上がった雑巾が学校に届き、校内に雑巾ステーションを設置。今後もこの取り組みを続けていく。また、ききょう苑の方々はちぎり絵も得意。昇降口にちぎり絵を飾った。校内の雰囲気が明るくなった。今後も作品交流を進めたい。 ・わくわくポスト等で先生の願いを募集。「おしゃれ職員室」、「行きたくなるトイレ」など様々な案があがっている。トライアル&エラーの精神で様々なことに取り組んでいきたい。

	・学校運営協議会の校外安全部会と PTA の校外委員が協力して、登下校時の安全マップ(デジタル版含む)を作成して、地域の方とも共有した。今後地区長とも情報共有を図る。
一色小	・一色小の放課後の学び場では、先生のアイデアで「カタカナシー」などゲーム要素を含む活動を取り入れた。活動を工夫することで、子どもたちには、豊富な語彙があることに気づいた。 ・スマイルネットルーム等での折り紙制作を通して、指先の巧緻性を高めたり、算数的感覚を身につけたりすることができる。こうした部屋があると、途中で終わったとしても、またその続きを楽しむことができる。 ・先生の意見や要望を実現していくための仕組みができてきた。今後も先生たちと力を合わせて進めていきたい。子どもの「楽しい」「好き」を生かしてあげたい。
一色小	・地域の方が学校にすることが当たり前。教職員だけでは対応できないこともサポートしてくれる。 ・地域学校協働活動を人手が足りないから助けてもらうものだと思っている教員がいる。本来はそうではない。地域と学校が協働して子どもたちを育ていく感覚を職員に養っていくことが大事。
山西小	・環境部会・・・中庭の草刈に必要な費用を学校運営協議会の予算で対応。卒業式用の花の管理が課題。PTA 役員を中心に管理してきたが、学校運営協議会も連携して対応したい。 ・学習部会・・・音楽会に向けて富澤裕氏を招いた。「ハンドサイン」を招いてコンサートを実施。 ・見守り部会・・・PTA 地区委員との連携が進んだ。地域ボランティアの活動内容や PTA の負担感を把握して、相互に協力した。 ・(参考) 12/3 (土) に PTA イベント「キャンプファイヤー実施」。300 人ほどの参加。
山西小	学習支援部会として夏休み中に教員から 3 つのニーズを把握し、活動を実現化。 ①授業補助 ・3 年国語「ちいちゃんのかげおくり」と関連して地域の方に戦争体験の話をしてもらった。 ・5 年家庭科「エプロンづくり」の補助。 ・3 年体育「マット運動」の授業支援。 ②ふるさと学習 ・4 年総合 川勾神社の宮司から川勾神社について話を聞く。 ③キャリア教育 ・「地域の宝」として地域で働く約 20 名の大人をキャリア教育の人材バンクとして登録。子どもたちへのアンケートで上位だった美容師を学校に招き、ゲストティーチャーとして話をしてもらった。次回は、ユニバーサル農場に行っておリーブの話を聞く。また、地区の太鼓連と連携して、4 年生を対象に演奏会、体験会を企画予定。
山西小	・地域学校協働推進委員が教員との対話を通してニーズを把握してくれる。子どもたちの思いを大切にしてくれている。
二宮中	9 月から本格的に活動が始まった。

	①学習支援 これまで、地域の児童館で行っていたが、学校（図書室）に変更。従来よりも参加人数が増えた。また、同時期に行う教員による学習相談も図書室で行うこととした。子どもたちは教員が同じ部屋にすることで、他の大人たちや高校生たちに質問しやすくなった。 ②施設修繕 学校運営協議会の地区長の紹介で DIY が得意な人を募った。校庭の看板を修繕。継続的に修繕するものと単発で実施するものについて整理することが課題。 ③防災 町の防災安全課に依頼して防災倉庫の見学を実施。 12/21 井上岳一氏による講演会を予定。演題「地域防災とコミュニティ」
二宮中	・学習支援を行うボランティアの手配・調整を担当した。 ・施設修繕など先生に窓口を担当してもらった上でその後の調整を担うこととした。 ・その他の企画として、3月に東大跡地のイベントに希望する中学生に参加してもらう予定。企画の意図は次の通り。総合的な学習の時間の発表を聞き、中学生の力量の高さを実感した。自分たちの力を発揮できる機会や枠組みを設け、もっと可能性を広げてあげたい。また、中学校同士の横のつながりも大切にしたい。地域貢献するためには、まず地域を知ってほしい。 ・中学生の下校の見守りは部活動で下校時刻が異なるため、どうしていくかは課題。
二宮中	平成 30 年度に学校運営協議会の準備委員会がはじまった。中学校における活動に関わるボランティアが少ないことは大きな課題であった。地域学校協働本部がない中で、推進委員が様々な人脈を生かして活動と人材を結び付けてくれている。 ・来年度からは、できれば各校の学校運営協議会に相互に参加できる仕組みをつくりたい。同じグループの学校に声をかけていきたい。そうした考えから、今年度の防災講演会に参加を呼び掛けた。小学校の学校運営協議会と一緒に活動していきたい。
二宮西中	・朝ごはんキャンペーンを 11 月と 12 月に開催した。人数は各回 7 名程度と少なかった。 ・PTA 活動の内容見直しを図り、「西中サポーター」というボランティア団体に形を変えた。地域や学校の行事を一覧して保護者に配付して、その中から 1 つは参加してもらうように声かけた。ポイント制にすることも検討したが、課題が多い。 ・PTA 役員の選出についてもスリム化を図り、令和 5 年度より約半分になる。31 名→17 名。実際に動き出して課題が多いようであれば再度検討する。まずは、トライしてみる。
二宮西中	・全国学力・学習状況調査の調査では、地域とのかかわりに関する項目の数値が低かった。 ・コミュニティ・スクールについては、まだまだ学校主導の部分が多い。 ・生徒がもっている力を発揮できる機会の提供を工夫したい。 ・校長と PTA 会長と CS 会長の 3 人で地域の人に中学生に協力してほしいものをアンケートで聞いた。 ・9 月防災講演会を実施。 ・総合的な学習の時間では、1 年生が福祉体験、3 年生がふるさと学習の一環として地域提言に取り組んだ。

	・文化祭（秋麗祭）の内容について地域と相談して連携を図った。 ・3月に行う講演会（講師：具志堅幸司さん）についても地域に呼びかけている。
事務局	・地域学校協働活動推進委員が5校に揃って1年が経過した。 ・学校教職員にも地域学校協働活動についてアンケートを実施する予定。
一色小	質問：山西小のPTAイベント委員とは？ 質問：二宮西中のPTA役員の役割は？
山西小	学年委員と成人委員を統合した委員である。
二宮西中	本部委員6人から4人にした。広報委員は2名＋ボランティア制にした。成人委員と厚生委員はなくした。厚生委員のベルマーク活動は、WEBベルマークを中心に行っていくことにしたため、回収仕分けの必要なし。地区委員が担っていた仕事を本部委員に移管する。地区委員はお祭りや地区清掃等ボランティアへの声掛けを行う。
二宮小	質問：二宮中学校で行われる12月21日の防災講演会の詳細を教えてください。
二宮中	12月21日（水）15:00～17:00 受付14:45 会場は二宮中体育館。講師は井上岳一氏。
二宮小	質問：スマイルルームについて いろんな大人が入ってくることは良さもあるが、リスクもある。心配な点はないか。
一色小	・現状では、顔見知りの方ばかりで、知らない人が入ってくる感じではない。玄関にて受付実施、名札着用を求めている。また、子どもたちには大人がいない時にはスマイルネットルームには入らないこととしている。今は互いに顔の見える関係で進んでいる。
二宮小	規模が大きい二宮小でも参考にしていきたい。
一色小	いきなり活動が活発に展開され、賑わうわけではない。
二宮小	地域の人が学校に関わる上で、どうしても遠慮する気持ちが先行してしまう。地域の人にとって見えない壁はあると思う。
一色小	PTA役員になる前は、学校の先生と話す機会は、子どものトラブルの時だけだった。PTA役員になり、学校の先生と様々な話をできるようになった。すごくいい。
事務局	次年度から「にのみや学園」となる。 各学校でとったアンケートや推進委員がとりまとめたリスト等の情報を共有したい。（山西小の20件のキャリア教育に資する人材リストなど。）この点については、3学期でまた検討し、共有していけるようにしたい。
二宮小	教職員のニーズを知るうえで、どんな方法が有効か共有したい。
一色小	子どものニーズも把握したい。支援教育補助員は、教員とは見えている景色が異なる。子どもへのアンケートは難しいと思うので、支援員経由でもいいから子どもの思いやニーズをつかみたい。
一色小	・地域にいる多様な大人が学校に日常的に入り込んでいくことで、多様な子どもの思い、効果的な実践方法が見えてくる。日常的に多様な大人がいる環境が大事ではないか。 ・にのみや学園として共通したカリキュラムがあるといい。人材バンクを生かすことができる。
教育長	次年度から「にのみや学園」として1つの組織になるが、各校の独自性も大切にしていきたい。子どもの豊かな学びを軸にして、共有できるものは共有し、効率化をはかっていく

	ことが大事。
事務局	次回日程について
5 閉会	